

5. 酒造好適米栽培耕種基準

酒米生産計画に沿った生産とし、地域で統一的な取組を行う。

項目	要点	実施内容																																										
品 種	風鳴子 吟の夢	平坦部での早期栽培とし、過度の施肥は行わない。千粒重が大きいので、播種量は1~2割多くする。 中山間地域の普通期栽培とし、過度の施肥は行わない。																																										
1. 育 苗	種子更新の徹底を図る	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。																																										
2. 本田の耕起	野菜跡などの作付はさける	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。																																										
3. 施 肥	基肥+穂肥体系とする	<p>乾田の標準的な施肥</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品 種</th> <th rowspan="2">成 分</th> <th colspan="4">10a当たり施用量 (kg)</th> </tr> <tr> <th>基 肥</th> <th>穂肥 I</th> <th>穂肥 II</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">風 鳴 子</td> <td>N</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>P<sub>2</sub>O<sub>5</sub></td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>K<sub>2</sub>O</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">吟 の 夢</td> <td>N</td> <td>4</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>P<sub>2</sub>O<sub>5</sub></td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>K<sub>2</sub>O</td> <td>5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1)穂肥施用の診断指標 幼穂形成期における草丈(cm)、茎数(本/m<sup>2</sup>)および葉色(SPAD値)の積値が10.7×10<sup>5</sup>程度までなら3kg/10a施用する。12.2×10<sup>5</sup>を超える場合は施用しない。また、10.7~12.2×10<sup>5</sup>の時は0~3kg/10aで調整する。 (2)穂肥 I の施用時期は出穂前20日、穂肥 II の施用時期は出穂前10日。施肥量は耐倒伏性、穂いもち耐病性などを考慮して適宜加減する。 (3)緩効性肥料を用いるときは全量基肥施肥とし、施肥量は上記合計量の2割減程度を施用する。</p>	品 種	成 分	10a当たり施用量 (kg)				基 肥	穂肥 I	穂肥 II	合 計	風 鳴 子	N	6	3	0	9	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	7	0	0	7	K <sub>2</sub> O	6	3	0	9	吟 の 夢	N	4	1.5	1.5	7	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	6	0	0	6	K <sub>2</sub> O	5	1.5	1.5	8
品 種	成 分	10a当たり施用量 (kg)																																										
		基 肥	穂肥 I	穂肥 II	合 計																																							
風 鳴 子	N	6	3	0	9																																							
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	7	0	0	7																																							
	K <sub>2</sub> O	6	3	0	9																																							
吟 の 夢	N	4	1.5	1.5	7																																							
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	6	0	0	6																																							
	K <sub>2</sub> O	5	1.5	1.5	8																																							
4. 整地・代かき	均平に重点をおいて作業する	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。																																										
5. 移 植		稚苗移植栽培耕種基準に準じる。																																										

項 目	要 点	実 施 内 容
6. 除 草	適期に均一散布する	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。
7. 水管理	適期落水に努める	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。
8. 病虫害防除	発生予察情報をもとに適期散布する 特にいもち病、紋枯病の発生に留意し適期に薬剤散布する。	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。
9. 収 穫	適期刈り取りを励行する。 刈取適期の判定	稚苗移植栽培耕種基準に準じるが、酒米においては、青米や胴割れ米が混入すると、利用場面において問題となるため、適期刈り取りを行う。 (1)刈取りは、一穂の籾の90%が黄熟した頃で、気象条件によって異なるが、平坦部での各品種の目安は以下のとおりである。 風鳴子・・・・・・・・・・・・・・・・出穂後36日 吟の夢・・・・・・・・・・・・・・・・出穂後36日 なお、中山間地帯では10日程度遅れる。 (2)早刈りを避け、また刈り遅れないように注意する。
10. 乾燥調整	過乾燥の防止に努める。 乾燥機の適正利用による胴割れ米の発生防止に努める。	稚苗移植栽培耕種基準に準じる。 (1)玄米水分は、14.5～15.0%に仕上げる。 (2)選別をよくする（網目は1.8mm以上を使用する）。 風鳴子については、2.0mm以上とする。 (3)酒米は粒が大きいため、急激に乾燥すると胴割れが発生する。特に、風鳴子・吟の夢については、高度搗精（50%程度）するので、表面上分からなくても、酒の製造工程の精米中や浸積中に碎米となるため、乾燥中の還元率を毎時0.5%程度にする。